

GX 関連の研究開発に向けた政策面からの必要性および施策

～GX（グリーントランスフォーメーション）の実質化～

政策科学研究所

○所長・教授 ^{くさなぎ しんいち} 草薙 真一

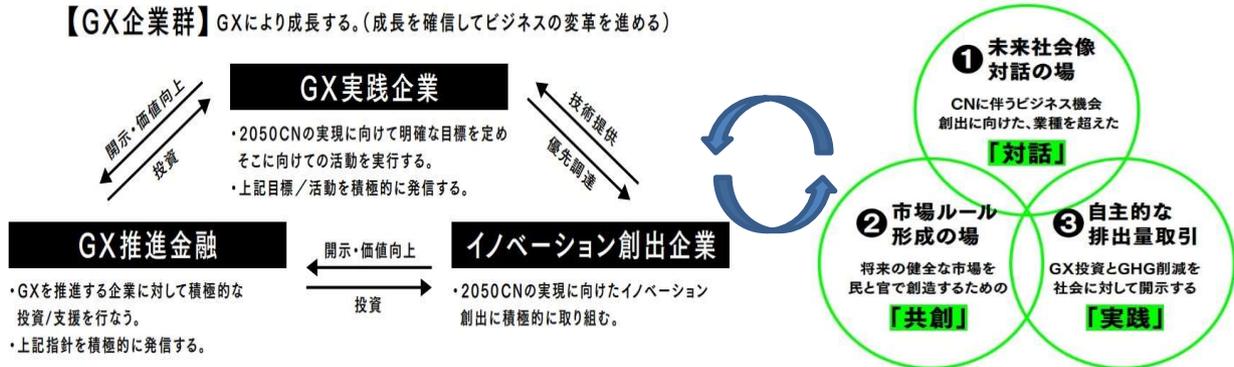
キーワード

グリーントランスフォーメーション, カーボンニュートラル, GX リーグ, 排出量取引, メタネーション, プロパネーション, イノベーション

研究概要

最近では、グリーントランスフォーメーションが、「GX」と略されています。デジタルトランスフォーメーションのことを「DX」と呼ばれることには、すでに馴染みを感じられているかもしれません。「X」を「トランスフォーメーション」と読ませる部分は同じであり、時流に乗った表記方法であると言えますが、研究開発に向けた政策面からの必要性からも、非常にイメージしやすく、優れた表記方法であると考えられます。さて、2050年のカーボンニュートラル実現と社会変革を見据えて、GXへの挑戦を行い、現在および未来社会における持続的な成長実現を目指す企業が、同様の取組を行う企業や官・学と共に協働する場がGXリーグです。GXリーグは2022年6月に発足しました。時流に乗ったものであると言えますが、その実質化こそが重要です。未来の社会を見据えた対話のもとで、市場ルールを形成する場を作り出し、資金を呼び込み、自主的な二酸化炭素など温室効果ガス（GHG）の排出量取引などを行います。本研究はそれらを総合的かつ包括的に取り扱います。

【GX企業群】GXにより成長する。(成長を確信してビジネスの変革を進める)



出典：経済産業省産業技術環境局『GXリーグ基本構想』（2022年）を一部修正

アピールポイント

本研究の優れた点は、まだ実現されていない技術を認識するため理系の知見を取り込んで政策研究をしているということです。兵庫県立大学の高度産業科学技術研究所や水素エネルギー共同研究センターなどと協働しつつ、社会がなしえていないことを未来の現実として措定しながら研究するのです。これがGXの政策研究につながるのですが、それは日本が目指す既存のインフラを活用し、追加的に二酸化炭素を排出することがない世界を誘導することになるという意味で非常に優れています。具体的に言えば、本研究はメタネーションやプロパネーションの追求にアピールポイントがあります。主に二酸化炭素と水素により、メタンガスやプロパンガスを合成する技術の推進政策を扱うのです。合成されたメタンガスやプロパンガスの大量導入が可能になれば、既存のインフラを使い追加的に大気中に二酸化炭素を放出することなく全ガス消費機器をそのまま使用することができるという点で、地球温暖化の問題に対し、経済的にも環境的にも究極の解決策になります。そしてこのイノベーションを導く方法で、水素社会を発展させることができます。これは本研究の大きな強みです。